

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194800064		
法人名	医療法人 彩清会 清水病院		
事業所名	グループホーム梅こよみ		
所在地	埼玉県さ秩父郡皆野町大字国神854-6		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 28日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 3 月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 4年 2月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・パーソンセンタードケアを行うことを事業所として掲げており、入居者を「人として」尊重する支援を心掛けている。また、入居者の家族、支援する職員も「人として」尊重されるようにしている。
 ・コロナ禍で外出はなかなか難しいので、施設内で入居者と一緒に楽しみながら何かすることを心掛けている。
 ・同法人の病院より、定期的に医師や看護師、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士など多職種の訪問があるので入居者の健康面で気になることがあれば相談できる環境である。また、訪問日以外でも電話で相談できる。
 ・認知症専門デイサービスも行っており、自宅での困りごとや相談など依頼があった際は説明している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

パーソン・センタード・ケアを支援の核として捉え、認知症の人とのコミュニケーションの手法も優れている。利用者の中には、「スタッフの顔は分からないが、声は分かる」と、言っている人もいる。至近の清水病院が経営母体でもあり、定期的に院長自らが往診で来訪する他、病院の看護師や理学療法士、言語聴覚士も来ている。筋力強化や歩行についての助言、看取り期の連携もあることより、家族やスタッフにとっても安心である。コロナ禍のため、利用者の楽しみでもあったお祭りへは参加できていないが、担当職員からの「家族への手紙」は喜ばれており、面会を控えている家族にとって、笑顔の写真は心の支えにもなっている。理念の「みんなの笑顔のために」は、季節装飾の壁面共同作品の温かさにも現れている。

pa-sonn		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パーソンセンタードケアを実施することをケアの柱とし各職員が支援を行っている。法人理念の『みんなの笑顔のために』を心掛けている。又、そのための行動として朝礼時に『心得』の中から1つテーマを決めて1日実践している。	梅こよみ心得6訓3約束から、毎日のテーマを決め朝礼で周知し、理念の「みんなの笑顔のために」に繋げている。当日は「一緒にいたくなる人」を挙げていた。SNSでユニット間の情報共有をしている。	認知症についての勉強会を、講師を招いて実践したい希望がある。学ぶことで、身体拘束や虐待についても更に考え、法人理念につなげていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルスのこともあり地域とのつながりは少ないが、散歩ですれ違う人や、近隣住民には笑顔で挨拶をしている。	コロナ禍前は地域の祭り等に参加しており、交流は濃厚であった。今は、散歩で出会うと笑顔で挨拶を交わしている。公民館での地域の筋力体操にサポーターとして参加し、交流は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム内で認知症専門デイサービスを行っており、自宅での困りごとや相談など依頼があった際は説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、令和2年3月から施設内で運営推進会議の開催は休止していて、記録のみ配布している。	コロナ禍のため2ヶ月毎の書面開催として、議事録は地域包括支援センターへ届けている。運営の概況と入居状況、待機者数、共用型デイサービスの状況等、運営全般にわたっての報告としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員とは会う機会が多く、いつでも相談できる関係にある。	運営推進会議議事録を持参した時に、情報の交換や行事の印刷ページを見て貰っている。市の担当者も参加の筋力体操やフォローアップ研修では意見交換もある。コロナ禍での連絡や助成もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は時間を決めて行っている。施錠時間以外はセンサーを設置し、職員がすぐに行けるような体制をとっている。身体拘束についてカンファレンスや勉強会を通じて共通の認識を持ち、理解を深めている。	身体拘束廃止委員会を開催している。役職者会議では、身体拘束や虐待の有無を確認し、拘束ゼロを再確認している。スピーチロックで気になる場合等は、管理者やリーダーが指摘しており、職員間でも相談し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段の業務の中でも職員間で声をかけ合い、細心の注意を払い虐待防止に努めている。言葉使い等虐待につながる危険性があることについては、気になる職員の言動を役職者間で共有し必要があれば面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや勉強会などで学ぶ機会を設け理解を深めているが、職員が十分に理解できる内容とまではなっていないので、外部研修に参加したりして理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に充分時間を設けて、内容説明や要望、不安や疑問点について丁寧にお答えしている。 契約時にも改めて十分な説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し記入方法もアンケート式にし記入しやすいよう工夫している。 家族からの意見や要望は職員全員で共有し運営の改善に役立っている。	家族向けのアンケートは〇×式でチェックし易いような工夫がある。医療的ケアが必要な人から相談を受けた時に、提携病院を紹介し、医療との接点が出来たことを喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中で意見を気軽にあげられるよう職員と良好な関係を築いている。 又、定期的に職員と個別面談を行っており一対一で話せる環境を作り意見を聞いている	ユニット会議では疑問点や提案などは出ている。いちご狩りへの意見や声を出さない体操の提案などがあつた。個人面談も定期的を実施しており、コロナ禍にあって利用者と共に過ごす時間が増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員との個別面談の実施や、年2回賞与シートの記入を行い各職員の取り組みが経営者まで伝わるようになっている。 有給休暇取得の推奨、必要な残業申請の推奨制服の貸与を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職のための認知症研修や理学療法士による移乗の勉強会など法人内の多職種と連携し、専門的な知識を学べる環境を作り、参加を推奨している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルスの影響もあり、地域密着型連絡協議会への参加や、他事業所との交流が難しい状況。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実調時や契約時に本人や家族の希望を聞き適切な支援ができるようにしている。 入所時は傾聴し本人の不安を軽減しながら良い信頼関係を築くよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実調時や契約時に本人や家族の希望を聞き、希望に応じて適切な支援ができるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聴く。本人の言動や行動などを職員間で共有し、今必要なサービスを見極め柔軟な対応ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今の本人の状態に応じて出来る事に目を向け、職員と一緒に楽しみながら行っている。 (おやつ作り、洗濯物たたみ、床掃除、行事用飾りなど)			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙で1ヶ月の様子を伝えたり、面会に来られた際に近況報告をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響もあり面会時間は短時間、面会場所も玄関先と限定されているがマスク着用、消毒・検温の実施、適度な距離を保つなど感染対策をして対面にて面会が出来ている。	事前に電話があり来訪される友人には玄関で話してもらっている。将棋の好きな人で職員と対戦すると不穏のなくなる人もある。習字の筆で書きたいとの要望から、娘さんに手紙を出され喜ばれたこともあった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間の移動が自由にでき、廊下にソファや椅子を置き交流しやすいようにしている。 体操や行事等には参加を促し、一緒に楽しみながら行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何かあれば相談して下さいと伝えられている。 退所されて数年後に退所された方の親戚から梅こよみに是非入居させてほしいと相談があった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、家族や本人の意向を聞き、プランに反映している。 困難時はカンファレンスで職員と相談し検討している。	以前利用のデイサービス管理者から、思いや性格等を聞くこともある。日々の会話を多くして意向を知るようにしており、情報を共有している。表現の乏しい人へは、上手いといった事例を記録に残し参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や普段の会話の中からその人の生活歴など把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録やケース記録を見たり、朝礼での申し送りでも共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度モニタリングを行い、本人・家族の意向を聞き検討事項はカンファレンスで話し合っている	3ヶ月毎にモニタリング用紙へ記入し、ケアマネジャーへ提出している。ユニット会議で意見を出し合い、家族の意見も入れプラン作成している。医師や理学療法士他の意見も組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌などの記録類やグループラインで情報共有している。 又、見直しが必要な場合はカンファレンスで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に2回主治医の往診や、週1回看護師の訪問、その他泌尿器科・形成外科・整形外科・耳鼻科の訪問診療。PT・ST・薬剤師など多職種に相談できる環境にあり柔軟なケアができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状の中で安全な暮らしができるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続される場合や、主治医変更をする場合など本人や家族の希望に合わせて受診支援している。	経営母体の清水病院院長の月2回の往診がある。夜間も連絡可能で緊急当番医が来てくれるか、または指示を受け安心である。当病院以外を利用される人は家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が週1回訪問したり、昼夜問わず入居者の状態変化について相談できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の地域連携室と密な情報共有を行い、できるだけ早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所の終末期の在り方や方針を家族・本人に充分説明をし承諾を得ている。	看取り期については入居時に説明し理解を貰っている。できる限り事業所での生活を支援するが、全身の浮腫みや水分摂取が困難となれば、家族を含め提携医と相談し入院としている。入院先病院とは交流も深く利用者にとっても安心である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回火災を想定した避難訓練を実施している。 AEDの使い方や人工呼吸、心臓マッサージの方法などを必要時に実践できるよう指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害計画書に沿って行動することになっている。 災害時は地元の消防団の方々との協力体制がとれている。	年2回の避難訓練は、消防署から水消火器を借りての実演を実施している。地区の消防団とも連携出来ている。町で準備している被災時備蓄品が至近の公民館にあり、事業所備蓄に加え安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく落ち着いた声掛けや、笑顔で接することを心掛けている。 又、トイレや入浴介助時は必ず戸を閉めるなどプライバシーにも配慮している。	個人情報の管理は事務室内で施錠されていて、使用については契約時に説明している。 6訓と3約束でも人格尊重に触れており、申し送り時などは利用者の位置を考慮し、イニシャル呼称としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人に合わせた言葉を使ったり、答えやすいような質問をしている。 本人が自己決定できるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者一人一人のペースに合わせてられるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさは第一に考え、季節にあった服装や清潔が保てるよう支援している。 2ヶ月に1回、訪問床屋が来て希望者は散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は業者のほうで決まっているが、みそ汁の具を切ったりおやつを入居者と一緒に作ったりしている。 入居者のアレルギーを把握し献立にある際は別の物を提供している。	テーブル拭きや、ホットプレートを使ってのおやつ作りは楽しまれている。希望の料理を取り入れての行事食は、芋を蒸したり、おやき等昔の味を好まれ、季節を感じる秋刀魚や栗、キノコなどが喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録している。 入居者の咀嚼や嚥下機能の状態に合わせてトロミを使用したり食事形態を変えたりしている。 入居者の好みの物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛け誘導を実施している口腔ケア用品は毎日消毒し、定期的に変えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつは極力使用しないケアを実践している。その人の状態や排尿間隔を把握し、定時にトイレ誘導を行っている。本人の表情や動き、言葉等からサインを見つけパットも最小限の量で済むよう支援している。	夜のみオムツ使用者はあるが排尿量に合わせてのパッド選定とし、出来るだけオムツを使用しないようにしている。退院後も、オムツは外し早めの声掛け誘導として、トイレ自立へ向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や牛乳などの摂取を促したり、歩行練習や手すりに掴まりながらの屈伸運動などを一緒に行っている。 なるべく下剤に頼らないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入れるよう入浴日は大体決まっているが、その日の体調や拒否などがあった際は柔軟な対応をしている。	週2回の入浴で、一般浴と職員が対面で介助する特殊浴は腹部ベルトがあり安全である。入浴が嫌いな人へは、無理強いせず翌日にしたり職員を変えたりしている。一緒に歌を唄う方は楽しげである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンも尊重しその人の生活習慣に合わせて休息できるようにしている。夜間安眠できるように日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬係を中心に把握しているが全職員が薬について理解しているとは言えない。飲んでる薬に変化があった際は状態変化が無いのか記録をとり、往診時に医師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルスの影響もあり外に出る事が難しいので施設内でも楽しめるよう行事用の装飾や工作、ぬり絵、展示物など様々な事を一緒に行っている。 入所前からの趣味も継続できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり入居者の希望にそった外出はできていない。 車から降りないが月に1回はドライブをしている。 天気の良い日は近所に散歩に行っている。	近隣は自然が多く蠟梅園や花名所へドライブで出掛け、写真を撮って家族へ送っている。コロナ禍で制限は多いが、庭が広いので外へ出るようにしている。法事等で家族と出かける時も外食は止めて貰っており、自宅での食事は可としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は所持をしていて、週1回来るヤクルトで好きな物を購入している。その他の方も希望があれば職員が代わりに買い物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族・親戚などに電話をかけている。相手からかかってきた際は事務所や居室でゆっくり気兼ねなく話せるよう配慮している。 本人が書いた手紙を預かりポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は安心・安全に生活できるよう整頓し、衛生面でも気をつけている。 入居者と一緒に作った工作物や季節を感じる展示物を貼り、目で見て楽しめる空間作りをしている。	利用者と共同の作品は素晴らしく、正月の鳥居、獅子舞、鏡餅等、毎月の作品に笑顔が溢れている。コロナ禍で換気もこまめに行い、手摺やテーブルのアルコール消毒などは利用者の協力もあって、コロナ感染もなく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを置き居心地よく暮らせるよう工夫している。 玄関前にはベンチを置き日向ぼっこや交流できるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具やお茶椀、湯のみ、冷蔵庫、テレビなど馴染みの物を自由に持ち込みができる。 居室の家具などのレイアウトも本人・家族で相談しながら決めている	エアコンとベッド、カーテンは備品として備えてあり、他は馴染のあるものを入れ落ち着きがある。仏壇や位牌、桐ダンス等、タブレット端末持参の人もある。本人の作品を飾って楽しむ人も多くある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に名前や写真を貼ってわかりやすくしている。 トイレ・お風呂場などの共有スペースにも大きく張り紙をして認識しやすいよう工夫している。		